

小樽地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

小樽市の交通は鉄道・路線バス・タクシーで構成されており、市内を東西に走る鉄道が幹線の役割を果たし、さらに市内にくまなく張りめぐらされたバス路線網とこれを補完するタクシーが、地域内における移動手段として、それぞれ通勤・通学・通院・買い物等の住民生活において重要な役割を果たしている。

しかしながら、市内の路線バスは人口減少等により年々利用者が減少することにより収支が悪化し、かつ乗務員不足により、運行維持がますます困難な状況となってきた。

このため、地域内フィーダー系統確保維持計画を策定し、地域住民の移動手段を確保する。

生活交通確保維持改善計画の目標

路線ごとにおける1便当たりの利用者を次のとおりとする。

- 小樽ベイビュータウン 7.5人/便 (令和5年度 6.1人/便)
- 新光・ぱるて築港 13.4人/便 (令和5年度 12.0人/便)
- 銭函・桂岡 11.4人/便 (令和5年度 11.2人/便)
- 小樽・桂岡 9.0人/便 (令和5年度 8.8人/便)

地域公共交通の現況

- JR函館線 (銭函駅、朝里駅、小樽築港駅、南小樽駅、小樽駅、塩谷駅、蘭島駅)
- 北海道中央バス(株) (市内26路線)
- タクシー事業者 (8社)

協議会開催状況

- 令和6年6月6日 令和6年度第1回協議会
・令和7年度小樽市地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について等
- 令和7年1月9日 令和6年度第2回協議会
・令和6補助年度フィーダー系統補助事業評価(案)について等
- 令和7年6月4日 令和7年度第1回協議会
・令和8年度小樽市地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について等
- 令和8年1月8日 令和7年度第2回協議会(書面会議)
・令和7補助年度フィーダー系統補助事業評価(案)について等

令和7年度事業概要

○小樽ベイビュータウン線	小樽駅前～朝里町～ベイビュータウン	運行回数: 120.0回
○新光・ぱるて築港線	済生会小樽病院～ぱるて築港～小樽自動車学校前	運行回数: 999.0回
○銭函・桂岡線①	銭函浄水場～銭函駅前	運行回数: 2,759.0回
○銭函・桂岡線②	銭函浄水場～銭函駅前～銭函パークゴルフ場	運行回数: 961.0回
○小樽・桂岡線	小樽駅前～小樽築港駅前～桂岡中央公園	運行回数: 1,083.0回

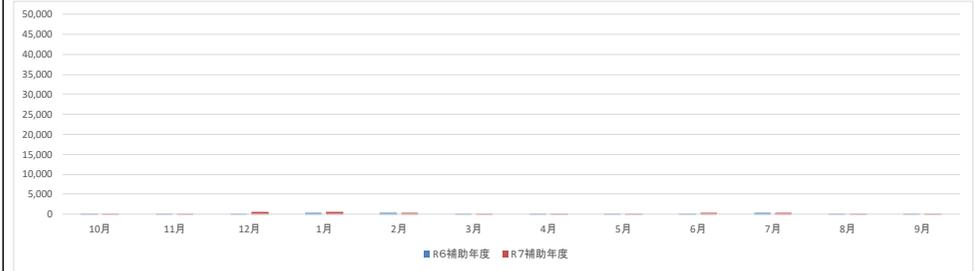
令和7年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

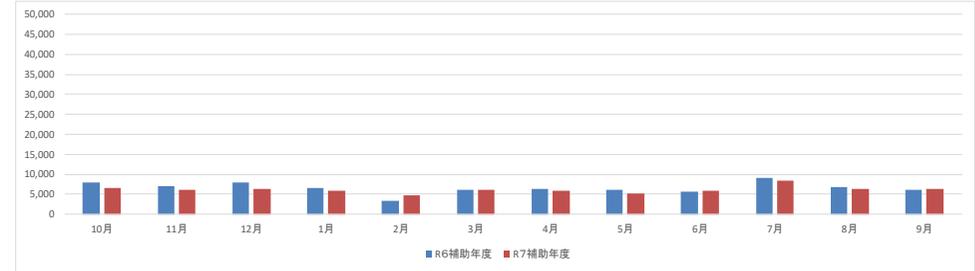
- ・バス利用者の利用状況に応じたダイヤ改正を行うことで、適正なバス運行を行った。
- ・バス関連動画を制作し、YouTubeに公開することで、バスの利用促進に努めた。
- ・SNSを活用し、各種情報発信を行った。
- ・小樽築港駅前の交通環境改善のため、関係機関と協議を重ね、令和6年12月にバス停を新設した。

3) 利用実績

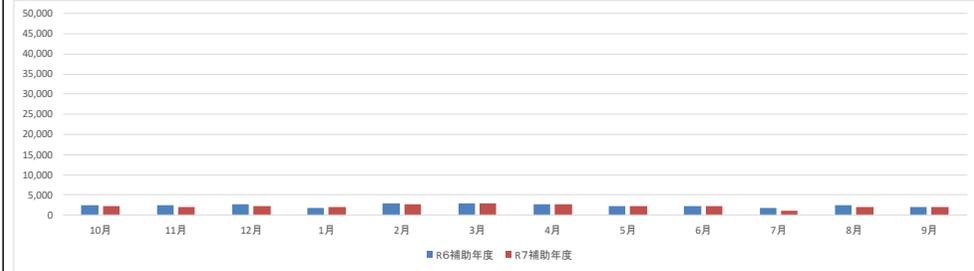
輸送人員 路線		単位:人												
小樽ペイビュータウン線		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R6補助年度		121	86	87	449	390	51	120	88	68	271	125	85	1,941
R7補助年度		134	117	562	569	437	140	189	134	461	306	162	133	3,344



輸送人員 路線		単位:人												
銭函・桂岡線		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R6補助年度		7,877	7,049	7,967	6,526	3,452	5,998	6,244	6,070	5,718	9,087	6,713	6,218	78,919
R7補助年度		6,511	6,149	6,395	5,802	4,673	6,183	5,939	5,268	5,983	8,372	6,443	6,287	74,005



輸送人員 路線		単位:人												
新光ばるて築港線		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R6補助年度		2,468	2,344	2,610	1,857	2,831	2,784	2,727	2,137	2,209	1,802	2,384	2,022	28,175
R7補助年度		2,149	2,036	2,280	2,073	2,706	2,856	2,711	2,131	2,272	1,063	1,950	1,953	26,180

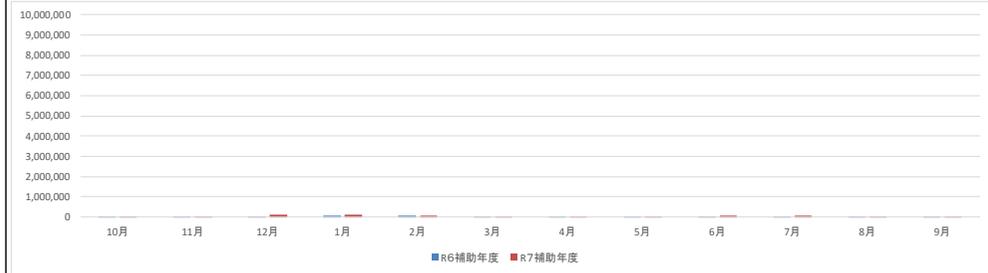


輸送人員 路線		単位:人												
小樽・桂岡線		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R6補助年度		1,400	1,329	1,791	1,426	1,230	1,496	1,490	1,356	1,436	2,645	1,815	1,696	19,110
R7補助年度		1,511	1,610	1,751	1,430	953	1,440	1,406	1,195	1,230	2,265	1,535	1,453	17,779

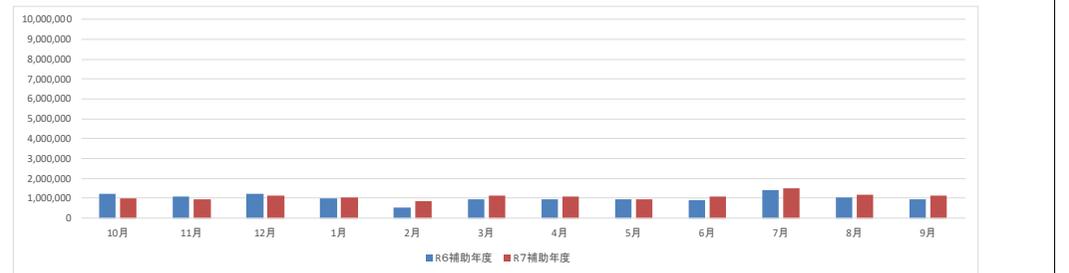


4) 収入実績

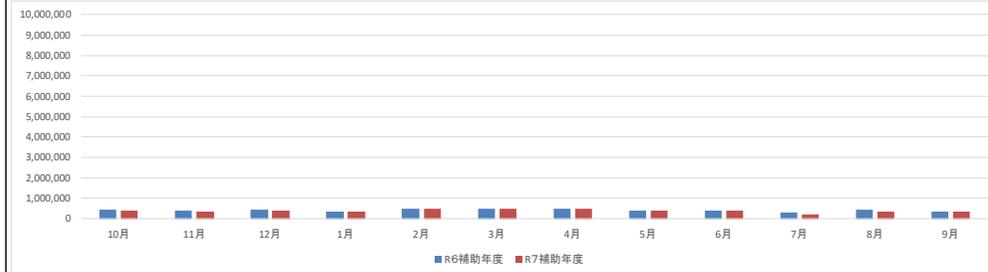
収入 路線		単位:円												
小樽ベイビュータウン線		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R6補助年度		17,944	13,582	14,247	76,049	67,844	9,891	17,169	13,086	12,716	46,698	19,319	13,425	321,970
R7補助年度		21,254	21,910	101,715	104,596	82,423	26,163	32,128	23,755	82,764	52,906	25,923	23,411	598,948



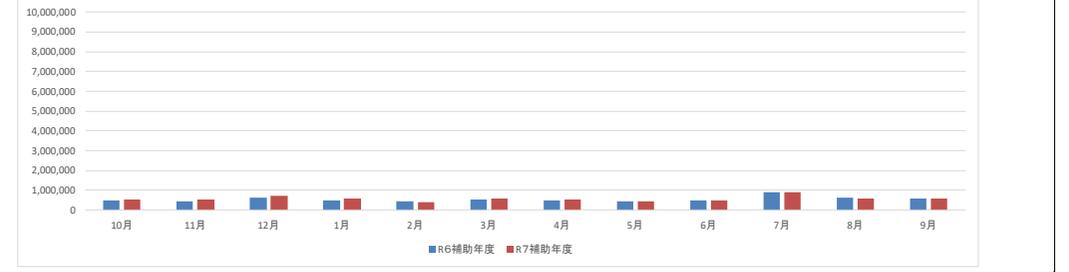
収入 路線		単位:円												
銭函・桂岡線		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R6補助年度		1,224,010	1,095,426	1,236,920	1,014,969	556,430	931,826	973,590	954,814	888,278	1,400,332	1,046,334	959,773	12,282,702
R7補助年度		1,010,163	951,748	1,156,643	1,058,924	852,367	1,120,883	1,080,467	953,641	1,086,001	1,503,475	1,168,489	1,134,251	13,077,052



収入 路線		単位:円												
新光ばるて築港線		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R6補助年度		437,036	419,998	465,496	332,966	498,896	493,191	477,230	377,070	389,525	322,378	421,553	359,021	4,994,360
R7補助年度		379,748	361,462	404,652	370,585	476,526	502,395	474,562	376,019	400,290	192,590	346,536	346,842	4,632,207



収入 路線		単位:円												
小樽・桂岡線		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R6補助年度		482,678	456,673	616,149	486,237	431,582	525,043	501,193	461,144	495,503	913,462	614,166	586,918	6,570,748
R7補助年度		516,915	549,571	698,718	567,530	376,602	574,810	531,464	463,153	479,417	898,915	590,029	584,030	6,831,154



5) 事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施された。

7) 事業の今後の改善点

引き続き利用者の増に向けて、利便性の強化や、SNS等を活用した広報活動等の利用促進策を実施していく。

6) 目標・効果達成状況

計画申請時の目標を路線ごとにおける1便当たりの利用者としたところ、4路線のうち3路線が目標値に達しなかった。目標を達成できなかった路線の要因として、今回の目標値は令和5年度のバス利用実績を基に設定したが、令和5年度はコロナ5類指定により利用者数が回復したものの、その後、人口減少も含め利用が落ち着いてきたことなどにより利用者が減少したものと思われる。

- 小樽ベイビュータウン 13.9人/便 (7.5人/便)
- 新光・ぱるて築港 13.1人/便 (13.4人/便)
- 銭函・桂岡 9.9人/便 (11.4人/便)
- 小樽・桂岡 8.2人/便 (9.0人/便)

※()内はR7計画申請時の目標値

8) 地方運輸局等における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・一部の路線で目標を達成することができなかったことから、今後も地域公共交通計画に基づき、利用促進策の取組を継続することを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率や公的負担額といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。